

令和 8 年度 第 1 回大阪府社会教育委員会議 議事録

日 時 令和 8 年 7 月 23 日（木） 15 時～16 時 30 分

会 場 大阪府庁本館 1 階 第三委員会室

出席者 野崎議長、久野副議長、西川委員、大谷委員、土生委員、原田委員、山本委員、
葉山委員

議 事 （１）第 68 回全国社会教育研究大会大阪大会について
（２）令和 8 年度子ども読書活動推進事業計画について
（３）「大阪府教育コミュニティづくり」について

<意見・質疑要旨>

◆議事（１）第 68 回全国社会教育研究大会大阪大会について

«議長による説明の概要»

- ・議長は全国社会教育研究大会大阪大会の大会実行委員長でもあり、議事（１）を進めるにあたり、資料を基に大会の全体像を説明した。
- ・そのうえで、大阪府社会教育委員会がどのような形で大会に参画できるのか、またその際の手続き等について、今後、大会実行委員会にて確認する旨を伝えた。
- ・大会中、分科会やシンポジウムがあり、社会教育委員の中に担当の委員もいることから、現状の報告を各委員に求めた。
- ・その後、全体会の概要について議長（実行委員長）から説明があり、その補足を地域教育振興課長が行った。

（委員）

- ・中之島図書館での分科会の進捗状況の報告をお願いする。

（委員）

- ・中之島図書館での分科会に関して、関係者でタイムスケジュールを確認した。分科会の解散後は中之島図書館の中を自由見学できるように案内する。

（委員）

- ・分科会の中では、私が熊取図書館の発表をし、泉大津市立図書館長が泉大津市の図書館の発表をする。具体的に図書館ではどういった取組みをしているのか、地域との繋がりという点ではどうことができるのかについてそれぞれ発表する。

（委員）

- ・シンポジウムについてはどうか。報告を願う。

（委員）

- ・シンポジスト 3 名と打合せをした。今後打合せを重ねて、大阪らしい社会教育研究大会になるよう努め

る。

(委員)

- ・全体会では火縄銃を打つことができなくなったが、火縄銃に触れられる体験コーナーを設ける。また、記念講演ではモンベルの会長がお話をされる。

(事務局)

- ・条例により火縄銃を打つことが叶わないが、火縄銃保存会の監修により、火縄銃に触れることができるコーナーを設置する。また、モンベルの会長は、社会貢献についてさまざまな考えをもちながら会社運営を行ってこられた。そのあたりを中心にお話していただけるようお願いしてきた。

(委員)

- ・火縄銃体験コーナーについて、安全面はどのように担保されるのか。

(事務局)

- ・火縄銃保存会の関係者が対応し、体験希望者に対して適切に案内する予定である。

(委員)

- ・大会運営スタッフとして協力する場合、どのような形で事務局に伝えればよいか。

(事務局)

- ・後日、各委員へ参加確認のメールを送付する予定であり、参加申込み等の手続きは事務局で取りまとめる。

(委員)

- ・社会教育委員がシンポジウム以外の分科会にも参加したい場合、事前申込みは必要か。

(事務局)

- ・事前に連絡をもらえれば対応可能であり、運営協力者として参加する場合は各分科会にも参加できる。

(委員)

- ・情報交換会への参加費と大会参加費の扱いはどうなるのか。

(事務局)

- ・運営スタッフとして協力いただく場合、大会参加費は不要となる。詳細は今後調整する。

◆議事（２）令和８年度子ども読書活動推進事業計画について

(委員)

- ・計画における「読書」の定義について、電子媒体の本と絵本・図鑑・漫画等の位置づけが分かりにくい。
- ・「一部分だけ読むことも読書に含める」という記載については表現を工夫するとともに、「調べるための読書」だけでなく「楽しむための読書」の視点も明記すべきではないか。

(委員)

- ・学校図書館司書の配置状況は市町村によって大きく異なる。
- ・中学校では司書教諭が、学級担任や教科指導等を兼ねており、学校図書館が十分に活用できていない状況がある。
- ・学校図書館の活性化を図るためには、学校図書館司書配置のあり方を課題として認識してほしい。

(事務局)

- ・学校図書館司書の配置は市町村ごとに異なる。
- ・国の調査では、大阪府の学校図書館司書配置率は全国平均をやや下回る状況である。

(委員)

- ・地域学校協働活動やコミュニティ・スクールの仕組みを活用し、地域ボランティアが学校図書館運営を支援する方法も考えられる。

(委員)

- ・学校図書館の充実にむけてボランティアの協力は有効である一方で、学校図書館は子どもの学習権や知る自由を支える重要な施設であり、専門性を有する学校図書館司書の配置が望ましい。

(委員)

- ・熊取町では全小中学校に学校図書館司書を配置し、町立図書館が学校図書館支援を行っている。
- ・子どもの読書活動推進のためには学校図書館司書の存在が重要である。

(委員)

- ・読書活動の推進には家庭環境が大きく影響する。
- ・事業実施によって読書時間や読書習慣がどのように変化したかを把握できる指標の検討も必要である。
- ・保護者自身の読書離れも課題となっている。

(委員)

- ・学校図書館の環境整備は重要課題であり、学校教育関係部局との連携も含めて検討してほしい。

◆議事（３）「大阪府教育コミュニティづくり」について

(委員)

- ・教育コミュニティづくり事業の予算の仕組みはどのようになっているのか。

(事務局)

- ・市町村・府・国がそれぞれ負担する仕組みで実施している。
- ・中核市については国の補助制度を活用している。

(委員)

- ・学校支援活動や地域活動はボランティアに依存している部分が大きく、人材確保や活動継続の観点からも予算確保が重要である。

(委員)

- ・「学校支援活動」という名称は実態に合わなくなっており、「地域学校協働活動」への変更を検討すべきではないか。
- ・今後コミュニティ・スクールの導入拡大が見込まれることから、リーフレットもコミュニティ・スクールを意識した内容に改める必要がある。

(委員)

- ・おおさか元気広場における企業等の出前プログラムは子どもたちにとって魅力的な学習機会となっている。
- ・今後さらに広報を強化してほしい。

(委員)

- ・「親学習」という名称は保護者にとって参加しにくい印象を与える可能性がある。
- ・教材自体は有効であるため、名称や資料の内容について見直しを検討してほしい。

(委員)

- ・リーフレットは情報量が多く、何が最も伝えたい内容なのかが分かりにくい。
- ・ターゲットを明確にし、活動の目的や成果が分かりやすい構成にしてほしい。

(委員)

- ・ボランティア募集にあたっては、どの部分に関わってほしいのかを明確に示す必要がある。
- ・ボランティアを「教育資源」として表現することには配慮が必要ではないか。

(委員)

- ・地域コーディネーターの育成は重要であり、地域任せにするのではなく府が人材育成を主導してほしい。

(委員)

- ・教員養成課程の学生に対し、学校教育だけでなく社会教育や地域との連携について学ぶ機会を提供することが重要である。
- ・大学との連携を継続して進めてほしい。
- ・リーフレット改訂にあたっては、「子どもを真ん中に据え、学校・家庭・地域が協働して育てる」というメッセージを分かりやすく打ち出してはどうか。

(委員)

- ・リーフレット改訂にあたっては、対象者や成果目標を明確にし、コミュニティ・スクールや家庭教育支援との関係も整理しながら検討を進めてほしい。